

令和7年度（2025年度） 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館

指定管理者：アメニス夢の島グループ

統括責任者 遠藤 岳生

I. はじめに

令和7年度（2025年度）は、レガシー施設のアーチェリー場において各連盟、協会その他各種団体との連携により体験イベントを実施したり、夢の島公園内の他施設との連携により「ティラノサウルスレースinドリームアイランド」「ツリークライミング体験会」「ナイトバブルショー」の開催により公園全体の新たな魅力発信だけでなく、来園者誘導に繋がった。



写真1・ティラノサウルスレース in ドリームアイランド

植物館では、SNSを充実させ、ポップアップ展をはじめ、11月～12月、1月～2月の夜間開館の実施など閑散期対策を実施したことや江東区観光協会をはじめ他施設のイベント等に積極的に参加しアウトリーチ活動を行い、新規利用層獲得のため小学生から大学生まで学習の場を提供してきたことで、若年層への来館誘導に繋がり、目標入館者数15万人を大きく上回り前年比112%超の168,519人の来館者数を記録した。



写真2・Garden of EDEN



写真3・Aerosculpture ver2「匂う森」

Ⅱ. 夢の島公園

1. 公園運営

レガシー施設のアーチェリー場において、昨年に続き日本ティラノサウルス競技連盟、夢の島公園内各施設との連携により「ティラノサウルスレースin夢の島（競技連盟公認レース）」を10月に開催し、2月には競技連盟公式レースを開催した。その際にはワークショップや地域企業の協力を得てキッチンカーを出店するなどレース



写真4 team bub BUBBLE TOUR 2025 in 東京

をするだけでなく長く公園に滞在していただくよう様々な要素を当グループで行った。レース参加者のアンケートから23区内だけでなく千葉、神奈川、大阪の各府県からも参加いただいたことがわかり、新たな公園利用方法を模索しながら「夢の島公園」の認知度の向上・普及につなげることができた。さらに東京初となる「ナイトバブルショー」の誘致に成功し、新たな公園利用の提案ができた。

次に「植物館のある都立公園が行う「園芸SDGs活動」として園芸リサイクルイベント」を継続して実施した。「植物交換会」「中古園芸資材の無料提供」を春と秋の年2回開催を継続して行ってきたことにより、リピーターや新規園芸ファンの獲得に繋がった。昨年より継続して実施した「プラスチック中古鉢プレゼント」では不要となった資材を事前に回収（380点）・点検・清掃を行い、希望者に無料で配布し循環の輪を広げることが出来た。昨年に続き三郷市立ピアラシティ交流センターにおいて、出張開催した。参加者の声、要望を踏まえながら、今後も定期開催、出張開催を行いながらモデル化を目指し、他施設との連携を図っていく。



写真5 植物交換会

維持管理では陸上競技用南側において巡回時、地面（草地）に違和感を感じたスタッフの報告から漏水箇所が判明し迅速に修繕を行った。



写真6 競技場横漏水補修

しかし、2月のメーター検針時に通常使用量を超える数値となり漏水が発覚。各所バルブを増設しながら漏水箇所特定の調査を継続中である。

第五福竜丸展示館近くからマリーナへ向かう園路脇のベンチを更新し、来園者に安心して利用できるベンチを提供した。

2. 公園維持管理作業

樹木管理では通常の樹木診断だけではなく、緊急樹木点検の指示があり、公道沿いや園路沿いなど一般利用者が通行するエリアを中心に点検や診断結果をもとに伐採、幹・枝剪定を高所作業車もしくはツリークライミングによる剪定作業を実施し適切な管理により来園者の安全を確保することが出来た。

施設管理では、U字溝や集水桝の特別清掃を実施する事で排水改善を図り、快適な施設利用に繋げ、第五福竜丸展示館横のトイレについては樹液等で通路タイルの汚れがあり、高圧洗浄機による清掃を臨時で行った。

スタッフ研修では、近年の事故の傾向や事例をあげながら検討し、作業要領の見直しを図り、安全への意識の高揚を図り、事故防止に取り組む作業中の事故やケガは発生無し。また、職員が各種講習会に積極的に参加し、新たな知見の習得とスタッフ内での情報共有により、意識の高揚に寄与した。また、防災訓練は、公園・植物館・アーチェリー場と連携して実施し、今年は地震からの火災発生を想定し、各担当が避難誘導の方法や手順を再確認し、避難想定場所において消火訓練を実施した。また、ポンプ前トイレにおいて防災トイレの設置方法などスタッフ全員で訓練を行い、発災時に備え、利用者への安全・安心への取り組みを継続して行った。



写真7 側溝特別清掃



写真8 防災訓練



写真9 防災トイレ設置確認

3. 公園利用促進事業

アーチェリー場を会場として「夢の島公園はらっぱスポフェス 2025」を開催し、その中でミニアーチェリー、ブラインドサッカーなどの体験会を江東区陸上競技場や障害者スポーツ協会と連携し実施した。また、公園内施設の BunB スポーツ文化館と連携し「ティラノサウルスレース in 夢の島」として日本ティラノサウルス競技連盟に協力を得て公認レースを実施した。さらに2月には日本ティラノサウルス競技連盟が主催の公式レース「ティラノサウルスレース in ドリームアイランド」を開催し、同時にワークシ



写真 10 はらっぱスポフェス内
ティラノサウルスレース

ョップ、キッチンカーなど協働し過去最多の 286 体参加、700 名を超えるイベントを実施できた。都内だけでなく千葉、神奈川、大阪など一度も夢の島に来園されたことのない方々にも参加していただき、レガシー施設を活用し公園の存在を広くアピールできた。また、「ツリークライミング体験会」も引き続き実施したことで、公園全体の新たな魅力発信だけでなく、来園者誘導に繋がった。

東京 2020 大会時に彩った夏花花壇は、新たに「1Day ボランティア」の活動の一環として継続し、また、都立大江戸高校ボランティア部の生徒、先生方にご協力いただき公園内清掃や花壇管理を1年を通じて実施していただいた。



写真 11 中学生の職場体験

また、中学生対象の職場体験、大学生対象の学芸員実習、インターンシップの受入れを実施。体を動かし体験をし、植物について目の前で観察しながら学習するなど、学びの場の提供を行った。

第4回東京パークガーデンアワードの開催地となり7月から募集開始。応募総数31件から入賞者5名の選定が行われ、剪定期間中の9月～11月で花壇整備工事が行われた。12月には入賞者5組により植付作業が実施された。

宿根草等を活用した「持続可能なロングライフ・ローメンテナンス」をテーマとしたガ

ーデンコンテストであるため、サステナブルガーデンの製作、普及へと貢献するとともに夢の島公園を知らなかった方々への来園誘導へとつながる。コンテストは2026年11月が最終審査となり一般の来園者の憩いの場の提供する予定である。



写真 12 12月初回 植付後の様子



写真 13 3月初旬の様子

Ⅲ. 夢の島熱帯植物館

1. 植物館利用と入館者数

令和7年度（2025年度）事業計画では入場者数を15万人目標と掲げていた。各種イベント、企画展、ワークショップなど体験型のものを実施したり、恒例の季節イベントも入場制限なしで実施し、夏の夜間開館も通常開催プラス1日の4日間開催とした。昨年、一昨年の状況から少しでもゆったり鑑賞していただくための4日とした。また、「奄美まつり」（我那覇美奈プレゼンツ）を継続開催した。加えて閑散期に新たな取り組みとしてポップアップ展、秋・冬の夜間開館を実施した。SNSによる発信や広報を継続して実施してきたことで若年層への来館誘導が浸透してきたようで、昨年比127%、54,084人となり、アメニス夢の島グループが指定管理を行ってから最多の入館者となった。また、開館以来累計650万人を4月に達成し、2月には当グループ管理開始以来、累計200万人を達成した。



写真 14 可動式授乳室設置



写真 15 おむつ交換台と回収ボックス

また令和7年度（2025年度）も継続して可動式授乳室、おむつ交換台横に回収BOXを設置、女性用トイレブース内に生理用品ディスペンサー「Oitr（オイテル）」を設置するなど快適な空間の提供した。アンケートでも「安心して来館できる。また子供とゆっくり来ます！」などの声をいただいた。さらに、授乳室（mamaro）メーカーと花王の企画、希望者におむつの無料配布（1つ）を実施した。利用頻度は少ないがご利用のお客様には満足いただいている。



写真16 Oitr（オイテル）の継続設置

その他、コミュニケーションロボットを活用したイベントやSNSの活用を積極的に取り入れ、楽しめる空間、癒しの空間、そして環境問題の提言を含めた、魅力ある施設運営を図った。

2. 植物館維持管理

温室上部のガラスに接触するほど生育したヤシを継続して定期的な樹木点検を実施。また、株が成長したオウギバショウモドキの整理（間引きなど）や固結した土壌のエアレーション作業などを実施した。強剪定や草本整理、伐根・除草等は休館日を利用して行った。新たな取り組みとして例年、季節になると開花状況などの問い合わせが多いハーブ園にある「ジャカランダ」も開花し、来館者に喜ばれ、高性能カメラを持った多くの方が撮影されていた。



写真17 ダイオウヤシ 枯葉等整理

なお、公式HPの「現在のみごろの花」にて植物の情報を発信。Facebookからnoteに変更して「スタッフのおすすめ」にて植物の情報発信を実施。紹介した植物を目的に来館されたり、電話での問い合わせをされたりなど反響があった。

施設設備管理では、開館より37年を迎え、老朽化が進み施設設備の更新、不具合箇所の修繕



写真18 臨時クーラー・冷風扇の設置

を実施。また、夏の酷暑（熱中症対策）として電気によるクーラーの設置や日陰の創出など実施。

大規模改修については全く見通せない状況の中、老朽化による不具合箇所（温水漏水などの対応も含む）や施設の長寿命化に向けた部材交換、施設の改善への協議を行い、緊急度の高いものから修繕した。結果、最低限必要な機能の確保、安全性、美観の維持に繋がった。なお、老朽化による突発的な設備の不具合（栽培温室 A 系統の温水の漏水など）が発生した際は、冬季であったため、急遽暖房器具を準備し人員配置をやりくりして、夜間監視ができる体制を取り、熱帯植物などへの影響を最小限で抑えることができた。このように、耐用年数・経年劣化・利用者の満足度と現状を照らし合わせ、補修・修繕工事、緊急対応経費工事はそれぞれの規模・緊急性等にて適切に仕分け対応できた。また、熱供給停止期間が 9 月から 10 月であったため、スポットクーラーほか冷風扇を設置し、室温の最適化制御を実施した。

職員教育では、外部研修や講座への参加、館内会議で他施設の良い事例や苦情、事故事例の共有、安全衛生推進会議の内容の共有を行った。また、本部の研修はLive配信やeラーニングを活用した。接遇や安全、個人情報保護法などの研修を行った。さらに、安全パトロールを定期的の実施するだけでなく、安全推進委員が他公園の安全パトロールに参加し、好事例なども共有を図った。

3. 植物館利用促進事業



写真 21
夏の夜間開館
ドーム外観と
奄美まつり



写真 19 栽培温室 A 温水管漏水 のため臨時加温設置

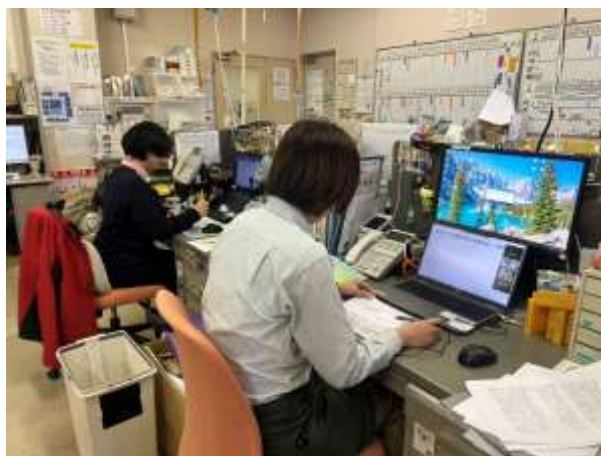


写真 20 オンラインによる研修参加

夏には「夜咲く、夜香る植物」の紹介のため閉館時間を 20:30 まで延長し、「夜間開館 2025」を実施した。昨年同様「我那覇美奈 Presents 奄美まつり inTokyo〜夢の島〜」スペシャルライブを開催。今年も HP, イベントチラシによる告知のみとした。昨年より 1 日多い状況ではあるが、来館者が集中することなくゆっくり楽しんでもらえた。昨年の 2,533 人に対し 3,819 人の来館があった。カフェスペースでは、新木場エリアの「うみねこ食堂」や奄美料理店の「せえごれ」との協働により飲食の提供を実施した。

閑散期対策の一つとして、11 月～12 月のうち 24 日間、1 月～2 月のうち 3 日間で夜間開館を実施。11 月 12 月はスマホゲーム「あんさんぶるスターズ！」とコラボし、ゲーム内ユニット「Eden」の世界観を光と音で表現した。約 3 週間で 9,238 名の方が来館され、何度も来館される方、夜間だけではなく日中も来館されるなど来館促進及びリピーターの獲得につながった。1 月末には、東京都の取組である CCBT のコアプログラムとして、匂いと音による体験型アートインスタレーションを展開し、植物館の新しい楽しみ方や貴重な体験を提供することができた。3 日間で 3,323 名の幅広い年代層の方に来館いただいた。また、ハロウィン時期には、植物館で保有している中で、オバケやコウモリなど関連したもの名前がつき、怖いエピソードを持つ植物を展示。さらに、企画展「熱帯のクリスマス展」も反響が大きく、正月の「干支の植物展」では、毎年楽しみにしているというお客様の声に応えることができた。



写真 22 あんさんぶるスターズとのコラボ



写真 23 CCBT（生活文化局）とのコラボ

昨年の「パナマフェア2024」をきっかけに今年は企画展「エルサルバドルフェスティバル」をエルサルバドル大使館との連携により開催した。関連イベントとして実施したオープニングセレモニーでは、駐日エルサルバドル共和国大使館ダルトン大使より、感謝の言葉をいただいた。今年が外交関係樹立90周年の記念すべき年にあたり、エルサルバドルの豊かな自然や国樹である「マキリシュアット」の紹介も植物館保有の実物を展示。



写真 24 エルサルバドルフェスティバル
オープニングセレモニー
ダルトン大使閣下のあいさつからスタート

また、文化生活に関してのパネル展示やお祭りの際の衣装や小物など貴重な品々をお借りしてご覧いただきました。オープニングセレモニーには友好関係各国大使館関係者、外務省、東京都政策企画局、国際協力機構（JAICA）日本ラテンアメリカカリブ振興協会（JAPOLAC）他、日本在住エルサルバドルコミュニティから 30 名が参加された。

植物館から飛び出した昨年の「ぬいぐるみおとまり会」を今年は植物館で「ハロウィン・ナイトパーティー」と題して実施。例年先行順で受付をしていたが、募集形式にしたところ、定員 10 名に対し 81 名の応募があり、応募多数のため、定員を 14 名として抽選し実施した。アンケートの回答や参加者の SNS では写真と一緒に感想をポストしていただくなど満足度は高く、「また参加したい」との声を多くいただいた。植物館らしく植物を軸に全体のアルバムを構成しているため、植物への関心を高めることにつながった。また当館の SNS でのポストや参加者が SNS で感想をポストしてくれることで当館の認知度向上と来館誘導、PR にもつながった。参加者がお迎えに来た際には、アルバムをみながら館内を回っていただくなど、今までとは違う植物館の楽しみ方も普及することができた。



写真 25 ぬいぐるみのおとまり会の様子

さらに江東区観光協会主催の「江東湾岸まつり」をはじめ、江東区夢の島競技場主催の「夢の島スポーツマルシェ」、アクアティクスセンター主催の「アクアスポーツフェスティバル」、BunB スポーツ文化館主催の「ふんぶフェス」にブース出展など参加しアウトリーチ活動を実施した。また、日比谷アメニスや日比谷花壇が管理している江戸川区立総合レクリエーション公園やあけぼの山農業公園においてフラワーアレンジ教室などを行いアウトリーチ活動を行った。DX推進の一環としては継続してARアプリ「熱帯植物虫めがねAR」公開し、AR技術を使って館内の植物解説を楽しめるというもので、カメラを通して温室（ドーム）内に立体映像が浮かびあがる仕組みで約1,200件を超えるお客様に楽しんでいただいた。また、昨年に引き続き名前を募集し決定したコミュニケーションロボット「ココ」を使って、「ココのゆめねつ植物図鑑 夜間開館スペ



写真 26 アクアティクスセンターでの様子



写真 27 ココのゆめねつ植物図鑑

夜間開館スペシャル の様子



写真 28 みなはむ個展「植物館のある生活」

の一つとしてお客様に楽しんでいただいた。

当館の利用者層では少数であった若年層の来館促進のため、実施した第 1 回目のポップアップ展でお世話になったアーティストの作品展を企画展示室において実施した。作者のファンはもちろん、作者をここで初めて見る幅広い年齢層の方に楽しんでいただいた。前回

の作品も加え全 22 作品の展示を行った。すべての作品が当館が舞台となっているため、モデルとなった風景マップを作成したことで大温室をはじめ何度も回って楽しんでいただいた。国内だけでなく海外のファンの方も来館されるなど広く認知度向上につなげることが出来た

また、第 3 弾のポップアップ展も開催。今回は漫画家「とよ田みのる」氏による作品展。作品中のカットへの着色作品など大変貴重なものを提供していただいた。

以前からご家族でも来館されていたりと植物館のお客様であったことから、スタッフの「粘りと努力」によって実現できた。開催期間中にはご本人がおひとりで来館されたりご家族で来館され、ボランティアガイドツアーに参加されたり、気さくにファンの方と交流されたりしていた。期間が 1 ヶ月であったが、北海道、福島など遠方より来館されるファンの方はもちろん初めて来館される方が多く広く認知度の向上に貢献できた。



写真 29 ゆめねつ×とよ田みのるのポップアップ展

IV. さいごに

令和 7 年度（2025 年度）も、毎月の目標入館者数を設定し、前年比の数字を踏まえた数値分析を行い、閑散期対策などを事務所内で協議し、常に新しいアイデアを計画に移し、実行した。

結果、入館者数が殆どの月で前年を上回ることに成功した。SNS の運用強化や、閑散期対策などによって、これまでの主たる客筋ではなかった 10 代 20 代の集客にも成功し、目標入館者数 15 万人を大きく上回る 168,519 人の来館を達成した。

また、開館以来の累計入館者数も 650 万人を達成し、2 月には当グループが指定管理を開始してから 200 万人を達成することが出来た。

今後も各種取り組みにチャレンジしながら、安全・安心に楽しめる施設を目指していく。